

期待されるシルバーアドバイザー



連絡協議会の皆様へ

(財)大阪府地域福祉推進財団
老人総合センター
所長 川西 孝

シルバーアドバイザー連絡協議会の皆様方には、益々お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃から当センターはもとより私共「大阪府地域福祉推進財団」の事業推進に格別のご支援、ご協力を頂きこの誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。また、会員の皆様のご活躍をホームページや新聞、広報誌等で拝見するにつけ大変嬉しく心強く思っております。

さて、私はこの4月に老人総合センター所長として着任いたしました川西でございます。私自身「福祉」とりわけ「高齢者福祉」の分野に携わることが初めてで、着任いたしましたから5ヶ月余り経過いたしました。日々勉強させていただ

ております。思い起こせば「福祉」という言葉から母のことが思い出されます。母が60歳の頃、孫を膝に乗せてテレビを見ておりましたところ、突然ガクッと前に平伏し、目がつりあがった状態になりました。脳血栓と診断され、その後半身不随のまま3年後にあっけない生涯を閉じました。

その闘病生活の中で、病院では介護者をつけてもらわないと入院ができないと言われ、家政婦さんを毎日お願いせざるを得ない為、医療費と介護費用の両方の負担がかかり、様々な問題に直面いたしました。今でこそ介護保険制度や介護サービスの充実など医療と福祉両方の観点から様々なサービスを受けることができますが、当時は問題解決に向けて、医療、福祉等で詳細に相談できる機関やサービスが少なく、手探りの中で介護をしてきたように思います。

ご承知の通り、日本経済は低迷し、また少子高齢化が進む中で、老人医療拠出金による財政圧迫から、健保財政等は軒並み赤字となってきており、また年金財政等を考えますと高齢者をとりまく社会生活環境はより一層厳しくなっていくものと予想されます。

また一方で、「シルバーアドバイザー養成講座」の本年度の応募者数が過去最高の倍率となったことや皆様方のボランティア活動状況などからみて、年齢にとらわれず地域社会と関わりを持ち続ける積極的な生き方を実践している「アクティブシニア層」の広がりがめざましい地域社会となってきている状況がよくわかります。

シルバーアドバイザー連絡協議会の皆様には、介護予防の観点からも、人生を豊かに生きようとする皆様一人一人の人生キャリアをもとに、ボランティアをはじめようとする人たちに活動の楽しさや充実感を伝えたり、活動上の悩み等の相談を受けたり、助言を行うなど、ボランティア活動の輪を横へと広げていっていただきたいと願っています。その広がりが社会生活環境を変えていく原動力につながっていくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、会員の皆様方の活動のご発展とご健勝を祈念いたし、私の挨拶とさせていただきます。
